

## 第32回

# 府中市男女共同参画推進フォーラム記録誌

地域で「自分らしく」生きる



2018年11月10日(土)・11日(日) 開催  
府中市・第32回府中市男女共同参画推進フォーラム実行委員会

## 第32回 府中市男女共同参画推進フォーラム記録誌

### 目 次

府中市長あいさつ	高野 律雄	1
実行委員長あいさつ	田中 ゆかり	
登録団体連絡会会長あいさつ	榎本 久美子	

基調講演「みんなの笑顔が地域を変える」	安藤 哲也	2
---------------------	-------	---

#### 講演

「日本の四季と月曆から生活を見つめる」	加藤 淳子	6
「自分のため 家族のため 知って生かそう憲法」	村井 朗子	8
「非正規職シングル女性の社会的支援に向けて」	秋葉 由美	10
「『更年期』の語られ方 -ジェンダーの視点から-」	原 葉子	12
「夫婦 -病める時も健やかなる時も-」	宮子 あずさ	14
「子どものわくわくを引き出す力！」	朝山 あつこ	16

#### 講座・ワークショップ

おはなし夢くらぶ／朝ヨガ／すみれ会／渋	18
食生活倶楽部／ポピーズ／住吉養気会／府中市助産師会赤ちゃんと遊ぼう会／オアーゼ	19
認知症予防ネット府中／人形劇サークルのびのび／科学体験クラブ府中	20
住吉さわやか会／3B健康体操	
パソコン連絡会／和文化研究会俱々楽／府中きまま塾／府中消防署&B.RE.M.S	21

会場風景	22
------	----

府中市男女共同参画推進フォーラムとは	24
--------------------	----

#### 参加・協力団体

参加人数とアンケート集計結果	25
----------------	----

男女共同参画推進フォーラム開催の歴史	26
--------------------	----

NWEC男女共同参画推進フォーラム参加報告	28
-----------------------	----

#### 実行委員から一言／実行委員会等開催記録

#### 男女共同参画都市宣言／奥付

## 府中市長 高野 律雄

本日は、第32回府中市男女共同参画推進フォーラムに早朝よりたくさんの皆さんにご参加いただきまして、厚く御礼申し上げます。また、田中実行委員長をはじめとする実行委員の皆さん、そして女性センター登録団体の皆様には、ご尽力をいただきまして重ねて御礼申し上げます。

さて、「男女共同参画」という言葉がだいぶ耳に慣れてきてはおりますが、地域においてその目的の実現は現実的には難しい現状が見受けられます。国では女性活躍推進法が制定され、あらゆる場面において男女問わず活躍できるように法律がととのえられてはおりますが、地域における活動についてはその実現が難しいのが現状です。府中市としましては、来年、センター名を男女共同参画センターと変更し、より多くの市民の方に関心を持っていただき、そして男性も女性も自ら地域へ一歩進んで活躍していただく、そのことが「地域で自分らしく生きる」ことにつながっていくのではと思っておりますので、男女共同参画推進フォーラムを契機に、皆様から市政に対するご指導ご鞭撻をいただきますと幸いです。

また、本日の講師の安藤哲也さんは、昨日は徳島県でご講演があり、本日は府中市と全国でご活躍される方です。是非、講演をお楽しみいただいて素晴らしい時間になりますように、皆様のご協力を賜りますようお願い申しあげ、挨拶とさせていただきます。



## 実行委員長 田中 ゆかり

本日はお忙しい中、フォーラムにご参加いただきまして誠にありがとうございます。登録団体のみなさま、フォーラムの開催に向けてご協力いただきましたみなさまに、心より感謝申し上げます。

第32回となりました今回のフォーラムは、11月5日より作品展示が始まっております。また、昨年からの企業のパネル展示コーナーも設けておりますので、ぜひご覧ください。

今回のフォーラムは地域に光をあて、テーマを「地域で自分らしく生きる」としました。地域活動は女性の活躍が多く感じますが、イクメン、イクボスなど、ぜひ男性の方の活躍が地域で広がりますように、今日は基調講演の講師にNPO法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也さんをお迎えしております。講演のタイトルは「みんなの笑顔が地域を変える」です。今いるところで、様々な世代の方が活躍できるお話がたくさん伺えると思います。楽しみにお待ちしております。

他にも講演会、たくさんのワークショップもあります。有意義なひと時をお過ごしいただければと思います。最後まで無事故で大成功のフォーラムになりますよう、実行委員一同、力を合わせて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



## 登録団体連絡会会長 榎本 久美子

本日は第32回男女共同参画推進フォーラムがここに無事に開催できましたこと、改めてお喜び申し上げます。開催にあたりまして、参加して下さる皆様、また実行委員の方々におかれましては大変な準備の中、今日を迎えられたと思います。ご協力をいただきましたこと、改めて御礼を申し上げます。

たくさんの方に協力、参加していただくことが地域の活性化につながるのだと実感しております。今回のフォーラムのテーマは「地域で自分らしく生きる」ですが、わたしは自分らしく生きるために、3年前からスペインへ行き、800キロの巡礼の道を歩いている途中です。1日20~30キロを歩くのですが、100キロ、200キロと苦難の中を歩いていると自然といろいろな国の方とのコミュニティが出来るのです。同じ目的地を目指すものが、励まし合い助け合いながら進む、人間本来の生き方を体感するのです。水もお店もない過酷な状態で、他人の優しさに触れ、自分と向き合い、等身大の自分の存在を理解し、本来の自分に戻れる気がしています。

また、わたしは普段、脳の活性化シナプソロジーの講座を行っているのですが、なかなか運動らしい運動をする機会がありません。しかし、スペインの経験を通して感じたことは、動物は歩くことで体を整えながら生きる！という事でした。歩くことは健康を保つこと、そして脳を活性化するため大事なことです。

閉じこもりやひきこもりが問題になっている昨今ですが、この女性センターに足を運ぶだけでも健康の第一歩です。ここを拠点としてつながった仲間と、自分らしく笑顔で過ごしていける方が1人でも増えていくことを願っております。



# 基調講演『みんなの笑顔が地域を変える』

～パパもママも楽しく参加～

講師：安藤 哲也



## 【講師プロフィール】

3児の父親。2006年にNPO法人ファザーリング・ジャパンを設立。「笑っている父親をふやしたい」と講演や企業セミナー、絵本読み聞かせなどで全国を歩く。地域においては保育園、学童保育クラブの父母会長、公立小学校のPTA会長を務めた。厚生労働省「イクメンプロジェクト推進チーム」顧問、「こっぼん子育て応援団」共同代表等も務める。

## ■父親が変われば府中が変わる

今日は父親の育児を中心に、孫育て、地域の子育て支援についてお話しします。

僕は昭和 37 年生まれで、男女雇用機会均等法成立の前年に大学を出ました。男性が外で働き、女性は結婚すると家庭に入る時代でしたので、友人の奥さんは全員専業主婦です。僕は 35 歳で結婚し、妻の希望で 2 人で働いて 2 人で子育てをしようと約束してこれまでやってきました。今では、妻は保険会社の管理職で稼いでくれています。3 人の子どもは今 21 歳、18 歳、10 歳ですが、14 年間、毎日保育園に通ったおかげで地域のことがわかり、それが NPO の活動にも生かされています。

## ■子どもは地域へのパスポート

まずは自分で PTA をやってみようと思いました。子どもは地域へのパスポートです。子どものおかげで地域の人たちとつながって、地域にパパ友 40 人、ママ友 70 人、ジジ友 10 人、ババ友 30 人くらいいます。これは最強のネットワークです。

あの「3.11」の日、僕は「のぞみ」に乗っていて身動きがとれませんでした。学校と妻に何とか連絡をつけなきゃと思出したのが地域のパパ友メーリングリストです。「今地震があって横浜で新幹線に閉じ込められているんだ。誰か学校見に行ってくれないか」とメッセージを送ったら「安藤さん大丈夫だよ。さっき学校行ってきた。子どもたちは無事だから安心して」と返事が来ました。その後、夜 8 時半くらいに妻から連絡が入って、子どもたちも無事だからあなたも頑張っただけ。やっぱり最後は、遠くの親より近くのパパ友だなと思いました。

## ■ファザーリング・ジャパン

2006 年に、楽天に勤めながら、父親であることを

楽しもうというコンセプトでファザーリング・ジャパンを立ち上げました。働き方の見直し、ワーク・ライフ・バランスを 2 つの戦略としてやっています。それが地域の活性化にもつながります。男性というプレーヤーが家庭でも地域でもやっぱり必要なのですが、当人だけにやれと言うのではなく、環境を整えてあげないとだめだと思うんです。地域の人たちも、育児をしているパパたちへ優しいまなざしを送ってあげてほしいなど。

これから必要なのは人材開発、人材育成。ハードからソフトなんです。子育ては未来育てでしょう。社会に出て活躍できる人材を育てていく。ママとパパと一緒に。地域も含めてです。

子育てをやっていると仕事にいい効果が出ます。生産性が上がるし、コミュニケーション力がつく。育休を半年、1 年取ったパパは、復帰してから営業でトップだったりする。物言わぬ赤ちゃんとずっと一緒にいたからコミュニケーション力がつく。

PTA 会長をやると、その能力がもっと手に入ります。PTA って、ほとんどがお母さんで、会長は男性じゃないですか。自分のかみさんより手ごわいのが 8 人くらいいますからね。チームワークをつかっていけば本当に管理職としていいスキルになります。今年度、現役の PTA 会長がうちの会員に 40 人います。PTA に比べれば会社なんて楽勝です。会社と違って PTA はもう多様性のるつぼでしょう。地域はアナザーワールドへの入り口です。今まで男性が感じるができなかった地域の中での喜びがあります。

そういうのを全部ひっくるめて、僕らは「よい父親ではなく、笑っている父親になろう」と。よい父親とは、働いて稼いで住宅ローンを返して子どもを大学に入れるみたいなミッション。地域でいうと、運動会で場所取りとビデオ撮影だけ一生懸命やって

いるお父さん。笑っている父親は、運動会を運営する側に回ります。係をやって、先生たちと一緒に子どもたちの成長を見る。一番特等席で見られます。これが笑っている父親の地域活動です。

## ■お父さん効果

世界でも父親に関する研究が進んでいて、イギリスでは、30年間にわたって17,000名を追跡調査した結果、成長期に父親とよく交流していた子どもは非行に走らず、学業成績優秀で、人間関係も良好ということがわかりました。新しいことへの挑戦心や達成意欲が高いという特徴が見られ、成人してからは自身の能力を発揮する職業につき、結婚して幸せな家庭を築くという傾向が強く見られたそうです。父親が育児に参画すればするほど、子どもの人生は幸せになりやすいらしい。

子どもの幸せを願わないお父さんはいないよね。育児を母親だけがやればいいのか、父親は働いていればいいというのは、ちょっと違うと思います。今、ワーキングマザーが増えています。世界のワーキングマザーの中で一番睡眠時間が短いのが日本です。家事の時間が長過ぎる。逆に言うと、男性の家事・育児時間がすごく短い。我が家なのに、ホームじゃなくてアウェーになってしまっているお父さんがいっぱいいます。家はただの箱。そこに温かい家族が住み、男性もその一員として時間や体力や愛情を投資しないとマイホームにはなりません。

## ■家事について

家事セミナーもやります。保育園に入る予定の子どもがいるパパたちを対象に、実技はもちろん、まず心構えを教えています。

日本の男性の家事のベストスリー知ってますか？第3位は食器洗い。第2位はお風呂洗いです。スポンジで浴槽の内側を磨くのはレベルC。レベルBは洗い場もちゃんと磨いて、特に夏場は子どもが座る椅子の裏にカビが生えているから歯ブラシで削る。週に1回は排水口の髪の毛を取るとレベルB'にアップします。レベルAは、全部洗い終わった後にちゃんと鏡も磨いて、シャンプーやコンディショナーのボトルが切れていないかチェックをして、黙って補充しておきます。家事の基本って、次に使う人が困らない、気持ちがいいってことですよね。僕を含めたSクラスは、シャンプーやリンスの在庫までちゃんと管理します。車で買い物に行くときにシ

ャンプー、リンス、米、水、妻のビール、猫のえさとか砂とか重たいもの系を全部買って所定の位置に補充しておく。これを身につけると会社の仕事がすごくうまく回ります。家事をやれば自然とマルチタスク能力が身につきます。

第1位はごみ出しです。嫁が玄関に置いてくれたごみ袋をごみ置き場に持って行くのは、ごみ袋移動。大人のごみ出しは、収集日も暗記して、各部屋のごみ箱からごみを集めて分別して持って行きます。トイレットペーパーをかえたり花瓶の水をかえたり。気づいた人が自分でやる。それが名もなき家事。これをいっばいやるとママからの評価も上がります。自分が貢献できて家族が喜んでくれる家事が家があれば楽しい。それがあれば男性は仕事を切り上げて帰ってきます。これがファザーリング・ジャパンが言うパパのハッピーワーク・ライフ・バランスです。



## ■笑う父親になるための極意6か条

子どもができれば、まず意識のOSを入れ変えることです。昭和世代はウインドウズ95のままです。OSが古いから、子育てとか家事のアプリで一々固まっちゃうんです。「これは俺の仕事じゃねえな」とか考えて。だから、まずは最新のOS（父親ソフト）を入れましょう。

子育ては義務ではなくて、楽しい権利です。家族は同じ船の乗組員。船の中では仕事がある。操縦桿を握る、甲板を掃除する、料理をつくる、何でもいい。何もやらずにソファでふんぞり返っていると家がアウェーになっちゃう。「家族サービス」という言葉はNGです。ベネッセのママ向けアンケートで、夫に言われて一番むかつく言葉の第2位が「家族サービス」。第1位は「手伝おうか」です。

男の育児は週末の質より平日の量を積み上げろ。これで妻にイトコドリと言われません。その上、仕事の効率がよくなり、もっと子育てに時間が取れ

る。コミュニケーション力、ダイバーシティ理解力、いろんなものが身につきます。

大事なのはパートナーです。奥さんの人生は自分のものじゃない。ママにはママのやりたいことがある。それを応援してあげるのがパートナー。

最後に、地域です。住民税だけ払ってれば府中市民じゃない。自分が汗をかいて、子どものために、高齢者のために、環境保護でもいいです、何か貢献する。利他的に生きるということです。誰かのために汗をかいて働く。利他的に生きている人ほど幸福感は高いという調査結果もあります。

### ■父親が育児に関わるメリット

父親がやることで母親のストレスが軽減される。ママの笑顔はやっぱり子どもにもいい。母親がキャリアを継続できるから、結果的に家計収入が伸びる。夫婦関係も強まります。それを見ている子どもの成長にもいい。子どものよきモデルとなる。男性も自活力、生活力がつくから、奥さんが病気で倒れて介護する側に回っても、やることは同じです。地域に友達も増えるから、定年になって行くところができる。老後に必要なのはキョウイクとキョウヨウ。「今日行く」ところがあるか、「今日、用」があるかどうかです。毎日行くところがあると健康になります。人は働くから健康になるんです。「自分が関心を持っているテーマで地域貢献したほうが楽しいよ、健康になれますよ」と僕らは思います。

男性が家のことをやると職場での能力が身につくし会社全体の労働生産性も上がってくる。父親になったら仲間を増やしたり能力を高めて世界を広げていく。最後は人生を楽しく終わる。これがファザーリングの本質です。



### ■ワーク・ライフ・シナジー、寄せ鍋

人生はてんびんじゃなくて寄せ鍋なんです。てんびんにすると、どちらかを犠牲にしてしまう。仕事

だけしていてもだめだし、育児だけしているお母さんも、子どもが巣立ったら具材が何もない鍋になってしまいます。具材として仕事があったり、育児があったり、その間に地域も趣味もある。何かを諦めるのではなく、どれも具材としてぐつぐつおいしく煮てブレンドさせていくという意味で、ワーク・ライフ・バランスじゃなくてワーク・ライフ・シナジー、相乗効果が生まれます。

### ■夫婦のリスク

女性の愛情の対象がライフステージでどう変化するかを調べた調査があります。子どもができるまで夫への愛情は地に落ちますが、問題は子育ての後です。愛情が回復したと答えた人は3割もいなかったのに対して7割強は「うちは低迷グループですね」と。ターニングポイントは、子育ての時期です。「子どもに手のかかるときに何もしなかったんです、うちの夫は」と。結婚後20年を経て破局した場合が熟年離婚ですが、その主な原因は熟年ではなく産後にあったということがこの調査でわかった。だからイクメンになればいいわけでしょう。それをやらずに親父や会社の上司と同じことをやっていると、自分もまた20年後に熟年離婚予備軍になってしまいます。

### ■子どものリスク

引きこもりのトリガーとなるのは母親の過干渉・過保護と言われていますが、やはり背景に父親の無関心がある。孤独な母親は「どうしてできないの、教えたでしょう」「何でまた散らかすの」と、否定とか命令とか禁止とか、全然ポジティブな感情になれない。そうすると子どもたちの自己肯定感や自尊心が育たず、「ママは僕のことが嫌いなんだ」「こんなところに生まれてこなければよかった」とか思ってしまう。今、学校のいじめもあります。その手前にある家庭が子どもたちにとって安心安全な基地になっているかどうかがとても重要なんです。

また、仲が悪い仮面夫婦を間近で見ていると、思春期の恋愛感情とか適齢期の異性意識が育たないので、結婚や恋愛に対してすごくネガティブなものを持ってしまう。母親のコマンド、指示がないと動けないので自立ができない。それで引きこもってしまう。

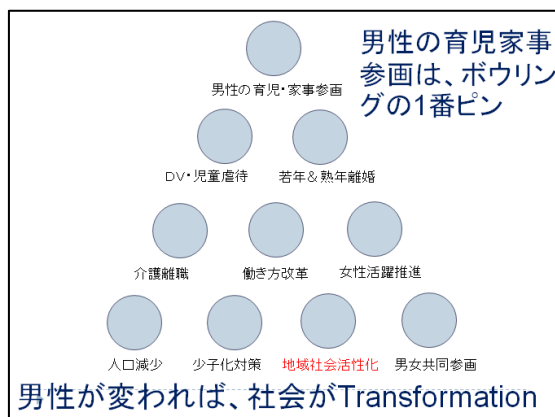
結論としては、子育てにおいて父親の役割がとても重要です。小さいころは、ママがちょっと倒れたときにリカバリーがきくようにしておこう。大きく

なったら外に連れ出しているいろいろなものを見せてあげよう。思春期になったらつかず離れず。手や目は離していいけれど心は離さないで信用して待ってあげる。そうすると子どもたちも、もやもやしていたのが過ぎて、自分で仕事を見つけて親から自立できます。これが一応最初のゴールなんです。

子どもの育ちの環境を整えてあげるのが父親の役割で、その環境要因で一番大きいのがお母さんの幸福感です。お母さんが幸せになることで子どもは育つ。そのお母さんをフォロー、サポートして、自分も楽しむ。これがとても重要です。ママの幸せをつくるのは子どもじゃなくて、夫と社会システムだと僕は思っています。この2つが日本は弱過ぎます。

## ■イクボス、イクジイ

こういうパパたちママたちのリクエスト、叫びにも近い声を受けて、僕は管理職を変えなきゃと思って、今イクボスに力を入れています。職場にいろんな事情を抱えた社員が増えています。短時間勤務の人たちです。その人たちをちゃんと応援できるイクボスが必要だと思っています。



労働人口がどんどん減っていく。今年生まれた子が2060年に42歳で、消費税20%と言われてます。その子たちに少しはましな社会を残していくのが今生きている大人の責任です。ヨーロッパは男性の育休が功を奏して出生率が伸びました。父親が変わる、周囲の応援によって変わることによって社会が変わります。わかりやすく言うと、ボウリングの1番ピンです。ストライクをとるときに必ず1番ピンを狙うじゃないですか。1番手前にあるやつ。あれが倒れるとストライクになります。1番ピンが倒れると2番ピンの家庭の問題が予防できる。働き方改革、女性活躍、介護離職の問題。一番後ろに並んでいるもっと大きな人口減少、少子化対策、地域社会活性

化、そして男女共同参画。これが全部倒れていきます。ボウリングの1番ピンを覚えておいてください。

男性が変わることで社会が変革、トランスフォーメーションしていきます。たった10人で始めたのが今全国で500人。パパたちには、自分の子どもを保育園に送るのは自分の家庭だけの問題じゃない。育休を取るの自分だけのメリットじゃない。「社会を変えようぜ、一緒に」と呼びかけます。子どもたちにいい社会を残していこうぜ。もっとママたちを笑顔にして、夫婦で人生楽しもうぜと言っています。

いつか僕もおじいちゃんになるかもしれないので、もうイクジイ支援もやっています。お父さんは忙しいので、リタイアしたお父さんたちに地域の子育て支援をやってもらっています。

例えば、昭和15年生まれのイクジイ。毎朝7時45分に学校の前に立って、子どもたちの様子を見守ってくれます。ちょっと元気のない子がいたら学校の先生に相談したりしてくれる。

16年生まれのイクジイは、大田区でほっとスペース「じいちゃんち」という子育て広場を作りました。家にいるママたちが追い詰められていると知って、奥さんと相談して、ほっとできる広場を自宅の2階につくったそうです。こういうイクジイが府中に増えたら、子育てに煮詰まっているママも大分楽になるんじゃないですか。

僕らは、イクメンになることでどんどん進化するイクメンの5段活用を唱えていて、イクメンが地域に出てイクメン。地域でPTAをやるから会社のマネジメントができてイクボスになります。イクボスが定年になるとイクジイになる。最後に、奥さんを介護するケアメンになります。皆さんのそばにいる男性がこんなふうになってくれたら、女性たちももっと楽に人生を楽しめるんじゃないですか。

娘の成人式の日、手紙を渡されました。「パパ、私を20年間育ててくれてありがとう。・・・パパって、自分のことよりも子どもたちや社会のために働いている。私も将来はそんな仕事がしたい」と書いてあるんです。「将来は私もパパみたいな人と結婚して・・・」、そのとき頭上でチェッカーフラッグを振られた気がしました。この子はもう大丈夫だと。

だから、娘のいるパパたちには、「しっかり毎日向き合って、ママを笑顔にしながらやっといこうよ。必ずその日が君にも来るから」と僕は教えています。

# 『日本の四季と月暦から生活を見つめる』

講師：加藤 淳子

企画：をだまきの会



## 【講師プロフィール】

1947年生まれ。1969年東京女子大学卒業。  
以来、2001年まで都立高校に国語科教員として勤務。  
退職後、専門学校講師として「文章表現」を担当（2011～2014）。  
著書に歌集3冊。

## ■はじめに

古典を読む上で、暦の理解は不可欠です。本日のテーマとした月暦とは、いわゆる旧暦のこと。太陽の動きで一年を、月の動きで一か月を定める、太陰太陽暦です。日本人は長い間、この月暦によって自然の動きを知り、文化を培ってきました。

## ■暦は民族の歴史

私たちが現在使っている西暦(グレゴリオ暦)は、「春分」を起点とする、ローマ起源の暦で、キリスト教によって普及しました。この暦でまず困るのは「1月1日」の意味が不明なことです。12月31日の翌日という意味しかない。日本人は正月(はる)を、人生の大切な節目としてきたのに。正月を迎える喜びを体感できないまま、改暦以来150年近くが過ぎてしまいました。

十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	正	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
小	大	立	寒	白	立	小	芒	立	清	啓	立	節
寒	雪	冬	露	露	秋	暑	種	夏	明	蟄	春	
大	冬	小	霜	秋	処	大	夏	小	穀	春	雨	中
寒	至	雪	降	分	暑	暑	至	満	雨	分	水	

二十四節気の一覧表をご覧ください。「冬至」が終わり、「小寒・大寒」が過ぎて、ようやく「立春」になります。立春に最も近い新月の日を、月暦では1月1日と定めます。冬を耐えて、太陽と月が共によみがえる日。だからおめでたいのです。立春の前日の「節分」に豆まきをしますが、これは本来、年末の行事でした。

2019年では、2月5日が本来の元日です。その頃になれば、「春の七草」も生えますし、空気もゆるん

できます。今の1月1日ときたら、寒さも暗さもどん底です。一面の枯れ野原だし、何がめでたいの？という感じですよ。改暦を強行した明治政府が、盆や正月の日付だけ残して、中身を取りかえてしまった結果です。だから年賀状のあとに「寒中見舞」なんて、ヘンテコなことになる。この改暦の乱暴さ、これは日本人のルーツを奪うことに等しい。立春に近い、本来の正月の日付で、賀状は書くべきです。

## ■現代日本の「年間行事」

今、私たちが見聞きする年間行事というと、まず七夕。大体どこの幼稚園でも保育園でも、商店街でも行う。新暦の日付だから、たいていは梅雨の最中で悲惨なことになる。「お月見」は、お菓子屋さんでススキをくれたりするから、まあ生き残っていますね。でも十三夜の方は、すっかり忘れられている。十五夜(8月)と十三夜(9月)の両方を見るのがエチケットでした。片方しか見ないのを「片見月」といって戒めたものです。今年は10月21日が十三夜でしたが、ハロウィンの直前で、どこへ行っても黄色いカボチャのお化けが溢れていました。日本には十三夜があるのにな、と寂しく思います。

そのハロウィン、クリスマスが終わり、年が明けると、意味のよくわからないままの正月になって、次は2月のバレンタインデー。その次はなぜか突然、桃の節句です。桃も咲いていないのに。その次はホワイトデー。なんなのこれ？ 私のいるのは一体どこの国？と思うのです。

## ■伝統行事の復権を

私は、その状況をあしざまに言うつもりはありません。商業主義にのせられているのは確かです。でも人々は、みんなが仲よく集まり、大人も子どもも一緒になって、何か作ったり遊んだり、語り合った



りする。そういう楽しいつながりの機会を求めているのではないのでしょうか。

人間の成長の過程に、親以外の大人(人生の先輩)というのは絶対に必要です。子どもや若者にとって、何かあったら駆けこんでゆける大人の存在は本当に大切です。それはやはり伝統行事等を通しての、日常的なつき合いの中で培われるものなのでしょう。例えば「お月見」は、そういう場だったのです。その日に限り子どもは、お月様への供え物でも畑の作物でも、何でも取ってよかったです。「今日は子どもの天国だよ。うんと発散しなさい・・・でも、ふだんの日は大変よ。ルール守るのよ」というメッセージが込められています。こういう形の遊び・しつけ・教育の場だったのです。こういう機会が私たちの身の回りから失われて久しい。大人も子どもも、男も女も、みんなスマホばかりいじっていて、人間同士がつきあう術を失っているように思えます。月暦で営まれる伝統行事が、人間らしさを回復する手がかりの一つになるといいな、と思います。

沖縄の石垣島では、月暦の七夕に近い週末を「南の島の星祭り」としてお祝いしています。夜8時に一斉に街の灯を消し、満天の星空と天の川を眺めて楽しむとか。これは一つの例ですが、まずはこの位の気軽な感じでいいと思うのです。頭をちょっと切り替えるだけ。予算もかかりません。自然に寄り添い、そのリズムに耳を澄ます・・・本当に豊かな生活とは、そういうものだと思うのです。それは、私たちの本来の時間をとりもどすことでもあります。ぜひ一步を踏み出してみましよう。

## ■参加者の感想から

日本って、美しい四季があって、それを愛でることができる国。最近それを楽しむ機会が余りないのではないかなど。歴史的には、太陽と月は対比で、太陽はエネルギー、月はどちらかというと静寂ですね。太陽が出ている間は脇目もふらず働く、それが沈んだ後に出てくる月を一日の疲れを癒すために眺めるみたいな、そういう基本的な生活が、昔からあったのでしょうか。今は、明るい夜がずっとあって、星も月も見ることが失われていますよね。やっぱりもう一度立ち返っていかないと、日本という国を好きになる子どもたちがいなくなってしまうのではないかと思います。

## ■概要について

当日配布したレジュメを以下に全文記します。

### 日本の四季と月暦

#### 一、古典と月

##### ★古代人と月

古代人にとって、月は照明であり、時計であり、磁石だった。「こよみ」は月が起源である。「ついでたち」、「つごもり」等の語源は・・・)

##### ★月と生命

月は死と再生のシンボルであり、潮の干満や生命の盛衰に関わる。また、月のサイクルと女性のサイクルは一致する。

##### ★月暦(太陰太陽暦)の仕組み

中国から伝来して千数百年使われた。この暦が日本人の季節感や時間の観念を深く規定した。明治政府による改暦(→明治5年12月3日を、明治6年1月1日に変更)により、月の文化から私たちは遠ざけられてしまったのである。

#### 二、月暦で生活を楽しむ

##### ★日本人の季節感

古今集1068首のうち四季の歌342首。(春134、秋145、夏34、冬29)

##### ★正月はなぜめでたいか

立春に最も近い新月の日が一月一日。それは太陽と月が共に再生する日。

##### ★伝統行事は新月・満月に集中

お盆、十五夜、十三夜、お十夜等。「名月や池をめぐりて夜もすがら」

月夜の祭りは、おとなと子どもの協同の場でもあった。

##### ★西暦への改暦がもたらしたもの

伝統行事の意味が不明に(例えば七夕)。私たちは行事の楽しみを失って生きている。

行事や祭りは、現代でも月暦で行うことが合理的。沖縄の年間行事は月暦で営まれている。中国、朝鮮半島、ベトナム、台湾等も同様。



# 『自分のため 家族のため 知って生かそう憲法』



講師：村井 朗子

企画：新日本婦人の会

## 【講師プロフィール】

三多摩法律事務所所属（三多摩地域最大規模法律事務所）国立生まれ。国立高校を卒業後、上智大学で法律を学び、2005年司法試験に合格。弁護士になる。いろいろな法律相談を受けて問題の解決にあたる。小学校や中学校で「いじめ防止」の授業を行った。日常的には暮らしのミニ講座をおこなっている。法律相談（無料）も随時行っている。

**司会** 府中市男女共同参画推進フォーラムの講座にお集まりいただきましてありがとうございます。私たちは、この講座を主催しています新日本婦人の会府中支部と申します。今から50年以上も前に平塚らいてうさん、童画家のいわさきちひろさんなどの各界の女性32人の呼びかけで創立されました団体です。国連のNGO団体として、暮らし、子育て、平和など、女性の願いを実現するために活動しております。

**村井弁護士** 憲法について、ライオンに登場してもらいながら、憲法とは何か、私たちの生活と憲法についてお話しします。

## ■憲法 — 人間らしく生きるために

憲法は普通の法律と違います。全然違います。ここにいる皆さん、人間です。みんな人間として生まれてきたから、共通のいろいろな願いがあります。痩せたいとか、お金持ちになりたいとか、家が欲しいとかあるけれども、みんなの共通の願いとして、みんな自分らしく、そして人間らしく生きていきたいと思っています。人間らしくというのは当然だと思うのですよ。そして1人1人異なる個性、みんな違うということを考えて、自分らしく生きるという願いをみんなが叶えるためには何が必要でしょうか。もし皆さんが倒れたときに救急車が来てくれる、火事になったときに消防車が来てくれるということが必要です。公共サービスというのも必要です。では私たちが1つ1つこういうルールをつくるという政治は、私たち1人1人ができません。そこで誰かにやってもらいます。誰にやってもらいましょうか。百獣の王のライオン（ここにおもちゃのライオンが登場します）は強くて頼りになります。私たちが人間らしく、自分らしく生きることができるようい

ろいろやってもらいましょう、ライオンは国家権力です。私たちが「よし、この人だったらやってくれるかも」と思った人です。でもちょっと心配なことがありますか。ライオンは強い上にわがままです。暴れ出したら手がつけられないです。ですからライオンと約束します。ライオンにはおりの中に入ってもらい、約束（誓約書）をします。この契約書が「憲法」です。私たちにみついたりしないように、憲法に基づいて政治をする。私たちの権利を守って行う政治を立憲主義と言います。

では、誰がおりをつくるのか。それは、かつてはライオン自身がつくっておりました、これを欽定憲法といいます。日本は昔、ライオンにとって都合のいいおりというのがありました。でもそれではだめだということで、私たちがつくったおりに入ってもらおう。憲法をつくるのも、そして改修するのも私たちです（国民主権と言われます）。国民が主権者で憲法をつくります。そして国家権力に授権をします。権利をあげるということですね。そして権利行使をする。この権利行使の中に法律のルールをつくらせるとかが入ってきます。

そしてどのライオンをおりに入れるのかは、私たちが決めましょう。それがまさに民主主義、選挙権です。では何を守るのかというと、国益や大企業、ましてや首相の利益ではありません。1人1人の人権を守るために「おり」があります。戦争してはいけないよというおり、勝手にライオンが外に出て戦争することができないようにする。戦争があったら私たちは人間らしく、自分らしく生きられません。だからおりがあり、勝手に戦争できません。おりがあるから心配は要りません。ライオンは私たちにほえかかってこない（それを自由権と言います）。ライオンは強くて襲ってくる性質があるからです。



### ■憲法 99 条

そして、私たちが人間らしく生きていくために、ライオンが襲ってこないように防ぐだけではなくて、困ったときにはちゃんとおりの中から、目的を達成するためにやってというのが、社会権です。ライオンに助けをもらうということですね。憲法はライオンを入れるおりでした。つまりライオンが守る約束というのが憲法です。何でこんなおりがあるのというと、私たちの人権を保障するためです。一方で、普通の法律というのは、ライオンが決めたルールで、おりの範囲、目的内でちゃんとつくられたルールです。憲法の範囲、目的外の法律を作ることができません。法律は私たちの方向、憲法はライオンの方向です。そのことが憲法の 99 条に「国家権力が守らなくてはならない」こととして書いてあります。ぜひ憲法そのものを読んでいただきたいのですが、99 条もぜひ、読んでください。

### ■経済的徴兵制

高校 3 年生の家に自衛隊から郵便物が届けられました。各種の資格がとれます、格安の官舎があります、住宅もあります、充実した手当もあります、とうたわれています。これは経済的に進学できない子の救いになります。医師の免許、看護師の免許もそこでとれます。ただその後 7 年間、軍に従軍しなければいけないのですけれども、何千万も普通はかかる医学部の学費を全部出してくれるのです、自衛隊がです。これがまさに経済的徴兵制なのだろうと思ったのです。

### ■憲法 24 条

自民党の改憲草案、実は 24 条も狙われています。家族は社会の自然かつ基礎的な単位として尊重され

る。家族は互いに助け合わなければならない。というのを入れたのですね。なんでも家族がやるのです。しかも、両性の合意のみに基づいて婚姻は成立するという条文を、両性の合意のみの「のみ」を削りました。家の嫁としてこの人がふさわしいかは、お母さん、あなたがちゃんと見なくてはだめでしょうということですね。これは個人を大切にしているといえるでしょうか。

離婚届は何のために作られたと思いますか。子どもを産めない妻を家から簡単に追い出すための制度です。子どもが産めない妻を家から追い出して、新しい若い人をいれる。子どもを産んだ後は追いだす。それで離婚届が必要だったのです。日本は家というものをごに考えた制度があり、日本は家という概念が色濃く残っています。

### ■個の尊重

憲法には、価値として尊重されるのは個人であることが 13 条に書いてあります。個人として私たちは尊重される。人間としてちゃんと生きられる、好きなことを自分で決められる、女でない、男でないとかいう話ではなく、個として見られる、そこに全部包含されるのではないかなと思っています。

自民党の憲法草案には、「人」としてと書いてあります。個人と人は違います。人としてといたら、犬なのか猫なのか人なのかみたいな話、人間なのかみたいな話ですけれども、個人というのはそこに人格があり人生があり、それを全部ひっくるめて個人と言うのです。自民党の改憲草案は個人を本当になくそうとしています。逆に、本当に個人が大事にされるから、私たちは憲法が大事だなというふうに思っているのです。憲法を決めるのは自分たちだということ。

### ■憲法を守るための不断の努力

憲法は私たちの生活や、私たちのリアルな生活と、ものすごくくっついてます。

憲法は見守っていないと大変です。そのために国民の不断の努力というものが必要になります。私たちに幸福追求権というのが認められています。幸福をちゃんと追求する国民の権利について立法その他の国政の上で尊重されます。国民の不断の努力で憲法が守られるようにしていきたいものです。

# 『非正規職シングル女性の社会的支援に向けて』

～実態調査から見た「非正規職シングル女性」の生きづらさ～

講師：秋葉 由美

企画：府中ネット



## 【講師プロフィール】

2009年入職。広報、女性の就業支援事業などの企画と運営に従事。2016年から「非正規職で働くシングル女性」を対象とした支援プログラムの開発と実施に携わる。  
(公財)横浜市男女共同参画推進協会は、1988年の事業開始以来、女性の就業支援事業を中核的的事业として、様々な事業を展開している。また、指定管理者として、横浜市内の男女共同参画センター3館を管理・運営している。

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会の秋葉由美さんを講師に「非正規職シングル女性の社会的支援に向けて」というテーマで講演会を行いました。

## ■非正規雇用の現状（ジェンダーの視点から）

非正規雇用の定義はありません。雇用期間の定めがない、フルタイム、直接雇用の3つの条件を満たす正規雇用以外は、全て非正規雇用で、パート、契約、派遣も非正規雇用として位置づけられます。

現在、日本では約2025万人、全労働者の4割弱が非正規雇用です。女性のみで見ると、女性労働者の5割以上が非正規雇用です。(総務省「労働力調査」2017年速報値)

非正規雇用の女性が増えたのは、パート職で働く既婚女性が増えたためと目されがちですが、非正規職で働く独身女性も増加している、ということも念頭におく必要があります。2000年代以降、非正規職で働く壮年期の独身女性の数は増え続け、現在では、35歳～44歳の働いている独身女性の4割が非正規雇用労働者です。(日本経済新聞2016年8月20日)

賃金構造基本統計調査によると、正規雇用と比べると男女の賃金格差は小さいものの、相対的に男性の方が高く、女性の場合、賃金ピークは、30代前半であり、30代後半以降は、減少傾向に転じます。

そして、非正規職で働く壮年期のシングル女性の貧困率は、50%を上回ります。(JILPT「労働政策研究報告書No164 壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究—現状分析を中心として」)

2000年以降、男性の非正規雇用の増加が話題になりましたが、女性の非正規雇用は、長く問題化されませんでした。それは、主たる稼ぎ手が夫もしくは父親であり、女性の仕事は補助的労働にすぎないと

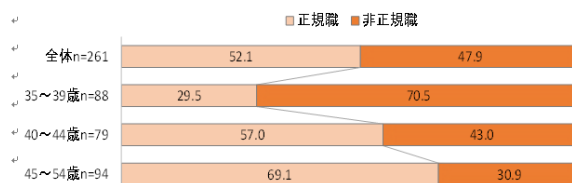
いう、男性が稼ぎ手のモデルに基づく考え方が、根強く残っているためとも考えられます。

## ■非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査

横浜市男女共同参画推進協会では、既婚女性を対象とした再就職支援事業やシングルマザーの就労支援、若年の無業女性の支援など、幅広く女性の就業支援事業を展開してきました。近年、女性の非正規雇用者数や、生涯未婚率が上昇していること、また就職氷河期に非正規職で働き始めた女性が、壮年期に差し掛かっているなどの社会状況をふまえ、2015年度、非正規職で働いている35歳～54歳のシングル女性を対象とした調査「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」を実施しました。

調査結果から、6割が「不本意非正規」であり、全体の約3割が年収150万円以下であること、低収入と雇用継続について、多くの方が不安を抱えていること、また、35歳から39歳の氷河期世代の約7割が初職から非正規雇用であったことが明らかになりました。(図1、図2)

図1 初職の就業形態【年齢別】



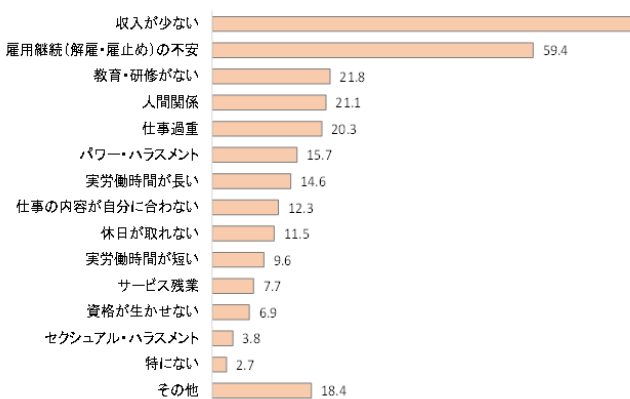
出典：公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会『非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書』2015年度

そして、経済的困難だけでなく、未婚であることについての心理的な圧迫や、(男性と比べ)家事や親の介護の担い手として目されやすいなど、ジェンダー規範による不平等があることもわかりました。

図2  
仕事に関する悩みや不安 (MA)

n=261 単位：%

出典：図1と同じ



## ■プログラムの開発と実施

調査で寄せられた声をもとに、2016年度は、内閣府委嘱事業「地域における女性活躍推進モデル事業」としてプログラム開発に着手し、「働きつなぐ」「労働者の権利と人間関係」「マネープラン」をテーマとしたプログラムを実施しました。また、社会構造の問題提起や当事者に役立つ情報を発信する、サイト「非正規職シングル女子のしごとと暮らし」も開設しました。一連の取り組みは、NHKの番組や新聞のほかWEBニュースにも取り上げられました。翌2017年度には、「介護」「健康」「正社員化」「副業」等のテーマを新たに加え、内容を拡充しました。また、参加者同士のつながりづくりを目的とした交流会も実施しました。

参加者からは「不安を具体的な課題として整理するきっかけとなった」「情報収集と行動を起こすことが大切とわかった」といった感想が多く寄せられました。また、交流会は、職場の悩み、困りごとを吐露したり、知恵を伝えあう場となりました。プログラム終了後も、自主的な集まりを通して、参加者同士の緩やかなつながりが続いています。また、メディアに取り上げられたことで、非正規職のシングル女性が直面する課題の顕在化にもつながりました。

情報を受け取る余裕がない、交通費の捻出が難しい等、困窮度が高い方へは、福祉的な支援が求められます。また、健康診断、介護の相談、職業訓練、

土日開設窓口など、既に行政が取り組んでいることも、当事者には、情報が届きにくく、利用への心理的ハードルも高いため、広報の工夫も求められています。

## ■支援を超えてできること

女性の貧困は見えにくく、これまでも可視化されてきませんでした。非正規職で働くシングル女性の壮年期の女性は増加しており、調査の結果から、多くの方が、ゆとりのない生活を送っている事がわかりました。自分のことではなくても、まず、隣人を知ることが大切だと思います。

そして、自己責任論で片づけないということ。前述したように、35歳から39歳の非正規職で働くシングル女性の7割は、初職から非正規雇用で、就職氷河期という時代背景の影響を強く受けていると言えます。

最後に、孤立させないこと。「貧困と貧乏は違う」と長年、生活困窮者サポートに携わってきた湯浅誠さんはおっしゃいます。「貧乏とは、お金がないこと」、「貧困は、お金がないだけでなく、人間関係も失い、精神的にもがんばれないところまで追い詰められている状態のこと」と。

「お金がない」状態を、わたしたちが変えていくことは難しいかもしれません。しかし、「貧困」に陥らないよう、人とのつながりを醸成し、精神的なサポートをしていくことは、男女共同参画センターができることの一つではないか、と考えています。



# 『「更年期」の語られ方 -ジェンダーの視点から-』



講師：原 葉子

企画：NPO法人けやきの会

## 【講師プロフィール】

社会科学博士 社会福祉士 日本福祉教育専門学校専任講師。  
専門学校や大学にて高齢者福祉や社会学の講義を行うかわら、おもにジェンダー論の視角からエイジングの問題について研究している。

本日は更年期をジェンダーという視点から見た時にどのようなことが言えるか、日本の近代から2000年頃までを中心に考えていきたいと思っています。

## ■更年期とは？

日本産婦人科学会は、閉経というライフイベントを挟んだ10年間ぐらいが更年期だと言っています。日本での更年期の捉え方は、非常に多くの症状を含むかなり曖昧な概念です。この解り難さも、更年期がどのように日本の中で枠組みを整えられていくかという、一種の政治性と関わる理由になっています。

## ■〈更年期〉という問題

更年期というものは、医学的な枠組みが非常に強いのです。医学も文化の一部で、医学に関わる人達もこの社会の中で価値観を共有しているのであり、医学の中にジェンダーバイアスが多く含まれている。その時代に女性或いは男性がどのように捉えられているかで、医学の中で男女の身体をどのように捉えるかが変わってきます。非常に社会的、文化的なものに関係しています。医療が進歩してきたから更年期が解ってきたというより、この更年期というものを医療が自分達の枠組みの中に取り込んできたのです。閉経、更年期も、ライフコースの一面だったものが、治療の対象になりました。

女性が歳をとることがどのように社会の中で捉えられてきたかについては、ジェンダーの問題、エイジズムの問題が絡んでいます。

スコットという歴史学者は、男女の身体的な違いに意味を与える知がジェンダーだと言っています。女性に特殊なエイジング局面として更年期が形成されてきたことを考えると、社会的な秩序をつくるた

めに、女性と男性の身体的なエイジングの差に更年期という名前をつけてきたのではないかと思います。男女の役割を決めておくことで社会が安定する部分はあり、女性のエイジングに名前をつけることも何らかの社会的秩序と関係していると思うのです。

エイジズムとは、ある年齢集団に対するステレオタイプのことです。歳をとることに否定的な意味合いを込めるエイジズムの問題と、そのエイジズムがジェンダーで異なるという問題もあります。

## ■西洋近代の〈更年期〉

ドイツの更年期概念は、19世紀初頭に男女両方の人生の節目を表す言葉だったものが、19世紀後半には完全に女性の性的機能の終了を中心とした定義になり、現在のような意味合いになりました。

## ■日本近代の〈更年期〉

日本に更年期概念が入るのは、西洋医学が導入されてからです。明治政府が近代国家形成のためにドイツ医学を採用し、閉経や更年期と訳される言葉が入ってきます。

1920年代には、ホルモンという内分泌の概念が入ってきます。この内分泌概念が、社会的な女性性や男性性をホルモンが形成するという新しいモデルを提供していきます。さらに、女性ホルモンが女らしさや美しさにも関わると考えられるようになり、女性ホルモンが無くなった女は男に近づくという連想になっていきます。気性も男性的に粗くなり、残忍、冷淡になると。生理的な問題で正常な判断ができなくなる女性に責任能力はないと。

この時期、更年期の姑の嫁いびりという話題が新

聞に載っています。嫁・姑問題は、家父長制の問題だったり家や共同体の中に隠されていた矛盾だったり、様々な問題から生じているのですが、姑にホルモンが欠乏したから嫁・姑問題が生じているとするのは社会的な部分を切り捨ててしまっています。

一方、男性の更年期がどのように考えられていたかですが、欧米では 1910 年代から男の更年期もあるのではという議論が行われていましたが、日本では全否定です。女性は生理がなくなると性的な機能は無くなってしまいが、男は違ふと。生物学的な議論と社会的な議論を混同していて、女は生殖が最高の役割で、それが終わってしまったらもうやることはない、男は 50~60 歳という時期が一番活動的な時期で、そこで更年期障害はあり得ないと。男性の職業生活や社会的立場が優位だと強調している点に、男性性は優越的なのだとの固執が窺えます。

## ■戦後の〈更年期〉

1960 年代に、ホルモンバランスの崩れが、自律神経の乱れと日常的なストレスということから説明されるようになり、その人の心の持ちようで更年期は酷くも軽くもなるという言い方になります。

ここで私が注目したのは、「女性」が「主婦」になったことです。高度経済成長期の中でサラリーマンと結婚する女性が増え、多くの女性が専業主婦になります。すると更年期というのは夫との関係性が崩れて子どもの巣立ちもあり、それまで主婦或いは母親として生きてきた自分の人生に乱れが生じる時だという解釈になっていきます。

この時期農村に住む人が減り、日本社会が都市化しますが、更年期が重い人と軽い人のタイプ分けがされると、農村で肉体労働している人は更年期症状が軽くて、都会で頭を使う仕事をしている女は些細なことが気になり精神的になると言われています。都市化に対して人々が抱いていた不安、新しいライフスタイルになってきたこと不安がこういう言説になり、都会の女は更年期が重いという話に繋がっています。

この時代の女性の老いに対する評価ですが、更年期の女性が自分の老いに不安を感じているから更年期障害になるという言説がよく見られます。これは社会がその当時女性の老いに対して与えていた評価の裏返しだと思うのです。ただ、こういうことを言っているのはみな男性医師です。ここまでの更年期

女性の描写というのは、男性から見た更年期と言えます。

それが変わるのが 1980 年代で、女性自ら更年期体験を語り始めます。具体的な体験の中身が語られ、それまで男性医師が描いてきた更年期像とかなり違う更年期像が出てきました。

1990 年代に団塊世代が更年期世代になり、更年期ブームが現れます。新聞に出る産婦人科医も女性が増え、更年期の知識が広がり、女性達も客観的に捉えるようになる。女性の高学歴化、女性運動も関係あると思うのですが、更年期自体が市民権を得ました。

治療はというと、更年期症状は病気ではないので薬は必要ない、生き生きと過ごすことで何とかできるという考え方が「予防」という話につながり、30 代から更年期を考える運動も出てきます。25 歳を過ぎたらアンチエイジング、そういう予防で人生全体が苦しくなってしまう部分もあります。

最後に男性の更年期ですが、男性の更年期も現在市民権を得ました。1990 年代後半には、更年期は男女にあるとはっきり言われるようになる。これは世の中全体の男性に対する考え方の変化に原因があると考えられます。背景としては鬱など中高年男性のメンタルヘルスへの注目と、歳をとっても生き生きと若々しくというアクティブエイジングの影響だと思います。それが社会で受け入れられるようになったことで、男性更年期が受容されるようになったのではないかと思います。



## 『夫婦 -病める時も健やかなる時も-』



講師：宮子 あずさ

企画：市民活動研究会

### 【講師プロフィール】

1963年、東京都生まれ。東京厚生年金看護専門学校卒。

1978年から2009年まで東京厚生年金病院に勤務。

2013年、東京女子医大大学院を修了し、看護学の博士号を取得。

現在も精神科の訪問看護師として勤務しながら文筆・講演活動を行う。

著書「看護師という生き方」「両親の送り方 死にゆく親とどうつきあうか」ほか多数。母は、女性の地位向上や反戦運動に精力的に取り組んだ、作家で評論家の吉武輝子さん（2012年没）

### ■ご両親という『夫婦』について

両親は父が72歳で亡くなるまで“夫婦”でしたが、“しっかりいった夫婦”だったかというそれは難しかった。私が生まれるまでは母が大黒柱で、母としては理想的な夫婦でやってこられていましたが、私が生まれると母は一平社員で子育てを負い、父は家庭のことは顧みずに仕事をするという、ありきたりの夫婦関係になってしまった。“完全に男女平等な夫婦”を強く願っていた母は「それは受け入れられなかった」とはっきり言っていました。

母は結婚に関して二つ大事なことを言ってくれました。一つは、2番目に好きな人と一緒になったほうがいい。もう一つは好きなものよりも嫌いなものが一致する人と一緒になったほうがいい。2番目に好きというのは、1番はビリにもなるが2番は一定だからということです。あまり愛情が深いと好きすぎて見過ごすものがあったりしますが、2番目は少し冷めた客観的な目でみられて暮らしやすいつことでしょ。あと、嫌いなものが一致というのは、趣味の世界で出会ってそれで夫婦としてやっていくのはちょっと違うということだと思います。自分は今、結婚生活を結構楽しくやっていますが、この二つは結果として満たしていたと思います。

両親は、離婚しそうな局面をなんとなく乗り越え、距離をおいた共同生活を送りました。父は離婚しない理由を「僕とテコ（※母のこと）は戦争ですごく傷ついたから、正直に生きて傷ついてきたのでしょがないっていう気持ちを共有しているんだ」と話してくれました。この言葉は両親を理解するうえで重要なキーワードです。私は、私がいるから別れないのではという寝言を思っていたのですが、そんなことは関係なく、二人にしか共有できないことを共有して別れないということなのだ。子どもの立場

から見る両親は、やっぱり“両親”で、“夫婦”ではない。私から見て、“両親としての二人”とそれでは理解できない“夫婦の二人”がいたということです。

### ■自身の『夫婦』について

私は、働き出してから再会した高校の同級生と結婚しました。私が書いたものを読んで興味関心を強くもってくれた人で、彼をがっかりさせなければ間違いないのではという感覚がありました。また、嫌いなものについて彼は、ひどい言い方ですが「バカが嫌い」と言いました。「マドンナと結婚して料理してくれなんて言う男はバカに決まってる」という意見で、私はツボに入って、ほんとにその通りと思いました。彼は、マドンナと結婚する時点で取捨選択をしなきゃいけないと思っているわけです。ちゃんとその人に何が望めるかを考えていけるということが「バカじゃない」の中身で、それは結婚して30年一貫しています。



幸いにも、結婚して“こんなはずじゃなかった”と思ったことはありません。一番助かっているのは、



結婚してこのかた不機嫌だった日が一日もないことです。「自分の機嫌は自分で取れ」を地でいく人で、目覚めた瞬間から機嫌がいいので、彼の顔色をみるってことは一回もないんです。それだけで十分よかったですって思います。あと、子どもがいないことはすごく大きいと思います。夫婦でいろいろ話し合い、最終的に子を持たないことを選びました。そこには私が“完全平等な子育て”をしたいという思いを絶対に譲れなかったという背景があります。子どもに限らず、私と夫の間で選ぶということは常に大きなテーマです。人生の取捨選択をしなければいけない場面で「これだけは免れたい」「これだけは勘弁だ」というものを切り捨てていくってことはやむを得ないと思います。そういう時に、嫌いなものが一致していることが重要になるのです。

男女は出会うタイミングで決まる確率が大きいので、これはお互いにハズレくじだ！と思った時に、お互いにやり直しがきくあり方であってほしいと思います。とくに女性の人生について言えば、別れられる状況がありながら別れないと選べるのが大事だと思います。

### ■ご自身の『夫婦』のこの先

母が50代の頃に「45歳から60歳と60歳から75歳までって人生が全く変わる」と言ったことをすごく思い出します。これからの15年はいろいろと見送っていくこと、お別れすること、そして私たち自身も衰えていくということを受け入れていかなければならない。これだけ老いに関する情報が多いと、どこまで備えるかということから話し合わない不安になります。主人とは、この先にどこまで備えるかをちょっと話し合っ、あまり多くの備えはせずに、なるようになることはしばらくそれでいく、働ける間は働くってことだけ決めました。

今55歳の自分の先々を考えた時に、健康状態はどうなるかわからないのが正直なところです。私は、できれば夫婦でずっと老いていきたいですが、先にある老いというのは、たぶん想定外のことがいっぱい起こってくると思います。ですから、一つ覚悟したのは、すべては予想できないということです。人間って死因は選べないし、老い方もどうなるかわからない。だから、大事にしたいのは今楽しいってこと。あんまり先々考えて想定しておこうというよりは、どんな死に方をして、まあ悪くなかったな

って思えるような、いろんな経験をしていくことにエネルギーを使いたいと思います。

### ■老いによる『鬱』的な症状への対応について

鬱の症状で何より注目するのは眠れているかどうかです。悩んでいても、眠れていればリセットがかなり精神的には休まります。眠れなくなったらほんとうにちょっと要注意かなという見方ではみていて、睡眠剤を出してもらっただけでも受診したほうがいいのじゃないかと勧めてみます。また、脳出血とか脳梗塞は、発症後にちょっと鬱っぽくなる人が多い印象があります。癌って病気も、もちろんなったこと自体のショックも大きいですが、体力が落ちてくるとより鬱になりやすいことはあります。体の病気をした後の気ふさぎに気をつける、特に脳出血・脳梗塞のあとの鬱は知らない人が多いので、それは知っておいてもらいたいと思います。

とはいえ、体の不具合があつたらいきなり精神科にいかずに内科にいったほうがいいです。一番怖いのは体の病気の見逃しなので、精神的なものと思っても体の科からかかることを勧めます。まず近所の内科のクリニックなんかについてみる。そして明らかに不調が眠れないだけの症状だったら、心療内科、あるいは精神科を標榜しているところについてみるのがいいと思います。



# 『子どものわくわくを引き出す力！』



講師：朝山 あつこ

企画：サークルいきいき

## 【講師プロフィール】

認定NPO法人キープerson 21 代表理事。3人の息子の母親。わくわくして動き出さずにはられない原動力「わくわくエンジン®」提唱者。

長男の中学校の学校崩壊がきっかけで、大人も子どもも自分を生かしていきいきと仕事をして生きていってほしいと願い、2000年にNPOを設立。「夢！自分！発見プログラム」を開発し、学校、企業、行政、大学、PTA、教育施設などと連携し、41,000人以上の子どもたちへキャリア教育支援を展開している。

今日は、子どものわくわくを引き出すために大人はどんな声かけや質問をすればいいのかということ、後半はワークを体験していただきながらお話しさせていただきます。

## ■質問力

これからお話しするのは、わくわくを引き出す力としての質問ですから、日常の質問とはちょっと違います。

質問には2パターンあります。1つ目は、自分のための質問です。もう1つが今日考えてほしい質問で、相手を理解しようとする質問です。この質問ができるのが質問力です。この違いはとても大きい。

会社説明会で、学生が企業に「残業ありますか」「給料は幾らですか」と質問しますね。これは自分のための質問です。でも、賢い学生は「御社は何を目指していらっしゃるんですか」的な質問をします。自分がこの会社にどれだけ役に立つか、メリットがあるかをお互いが理解できるための質問をします。これが質問力です。

子どもに「きょう〇〇ちゃんがいじめられてたよ」と言われたとき、「あら、かわいそうね」で終わらせるのではなく、「あなたはそのときどうしたの」と聞いてあげる。子どもが「先生を呼びに行ったの」と答えたら「そう、偉かったね」と返す。それで子どもの自己肯定感がぐっと上がります。「じっと見てたの」と答えたら「じっと見ていてママに教えてくれたんだね」と返すことで自己肯定感を上げられます。よい声かけや質問の仕方によってコミュニケーションが生まれ、子どもを成長させることができます。相手を知る、思う、理解するための質問ができるかどうか大切です。

## ■わくわくさせたい！

中学生のユウ君は、おうちが貧乏で、外国人です。動物が好きで、獣医になりたい。でも、お金もかかるし、学力も足りない。「だめと言われるに決まっている。どうせ無理だ。お父さんが働く肉の加工工場がいいや」と、やる気をなくして獣医を諦めかけています。

逆に、お金持ちで医者の娘さん。親に勧められて医者を目指して理系コースに進んだけれども、勉強がしんどくて、ほかの学部に変わりたい。でも、先生はもう少し頑張ってみなさいと言う。先生と親からの期待で苦しんでいます。

皆さんの周りにもこんな子がいませんか。この子たちには自分がないですね。わくわくしていない。私たちは、こんな子どもたちがわくわくすることができて、そこから自分の進む人生の方向を決める力を引き出したいと思っています。

## ■動詞的わくわく

わくわくには名詞的わくわく、動詞的わくわく、形容詞・副詞的わくわくがあります。

名詞的わくわくは、「絵が好き」「サッカーに夢中」「ゲーム大好き」のように、単なる興味関心の対象です。形容詞・副詞的わくわくは、「1人で静かにいたい」「みんなでワイワイやりたい」「アクティブにやりたい」とか、状態をあらわすものです。

ここで私が言いたいわくわくというのは、動詞的の「改革する」「冒険する」「知る」など、アクションにつながるわくわくです。

## ■わくわくエンジン®とは

自分の動詞的わくわくが理解できると、エネルギーの行き先がわかって、行動を起こすことができる

ようになります。

わくわくして動き出さずにいられない原動力のようなもの、これが「わくわくエンジン」です。これは全ての人の中にある、ダイヤモンドの原石のようなものです。子どもの心の中にあるダイヤモンドを引っ張り出して磨くこと、それが私たち周囲の大人ができることです。

小4のマコちゃんは本が大好き。それはとてもいいことです。でも、それだけではアクションにつながらない。私たちのプログラムを通して、この子は、「本のおもしろさやすばらしさをみんなに伝えること」にわくわくすることがわかった。お母さんはマコちゃんを図書館のビブリオバトルに参加させました。そうしたら、マコちゃんのわくわくに引き寄せられて、子どもも大人もどんどん図書館に集まってきて、まちも図書館もにぎわって、この子は賞を取って表彰されました。これがアクションです。

### ■職業につなげてはいけない

野球が好きで頑張っている子どもがいると、大人はすぐに「野球選手になれば」と言って職業につなげたがるのです。これはバツです。小さいときは「将来野球選手になる自分」と社会がつながっているように思えますが、やがて成長して「現実には野球選手になれないんだ」と気づいた途端に、自分と社会とのつながりが分断されてしまって、やる気がなくなってしまう。

私たちは、スマホで世界じゅうの情報をキャッチできるし、大学の授業まで受けられる社会に生きています。今ある職業は明日なくなるかもしれないし、自分で職業をつくることもできます。そんな世の中で、子どもの未来を短絡的に1つの職業だけにつなげるキャリア教育がいかにもナンセンスか。かえって子どもの自信を失わせるだけなのです。

### ■野球の何にわくわくするの？

【事例】同じ野球でも、わくわくする理由は違う！			
	A君	B君	C君
わくわくするもの	野球		
わくわくエンジン	作戦や戦略を立てること	チームで何かを達成するために自分が役に立っていること	日々の小さな成長を感じることに

野球の好きなA君、B君、C君がいます。私たちはこの子たちに何ができるのでしょうか。「野球のどん

なところにわくわくするの？」と聞いて、わくわくエンジンを引き出して、それを伸ばしてあげればいいのです。A君は「作戦や戦略を立てるところがめっちゃおもしろい」と言う。だとしたら、家族旅行の計画を立てるのを頼んだり、運動会の騎馬戦で勝つための作戦づくりを頼めばいい。大人はそうやって子どもを伸ばしてあげることができるのです。

一番大事なことは、1人1人を認めることです。そして、その子のわくわくエンジンを見つけることさえできれば、あとは自分で動き出します。

人はわくわくすると能動的になるということを否定する人は誰もいないと思うのです。私たち大人の質問力で子どものわくわくを引き出すことができれば、能動的で主体的な子どもに育っていきます。

個人の幸せや地域の活性化、イノベーションや世界平和のスタートは、1人1人のわくわくエンジンを発見することから始まるのだと思います。

### ■ティーチングではない

私たちが育てたいのは、自分で考えて選択して行動する力を持っている子です。そのためには、こうあるべきとか、こうしなさいとか、一切ご法度です。

学校教育ではまだまだティーチングが必要です。ティーチングでしかできないことはたくさんあります。でも、子どもの人生を決めるのはティーチングではないのです。なぜならば、社会は変化するからです。先生や親が持っている概念なんて、とうに古いんです。そんなものを子どもに押しつけたところで、子どもが不幸になるだけです。

子どもが自分の未来を切り開くために必要なのがわくわくエンジンです。私たち大人は、そのわくわくエンジンを引き出して、理解し、伴走していく。そのスタートが質問力なのです。

私たちは、わくわくエンジンを引き出すためのプログラムを独自に開発し、それを全国の学校だけでなく、まちづくり、PTA、学習支援、女性応援、企業人育成などの分野でも展開しています。

では、これから皆さんに、自分のわくわくを発見するワークの一端をやっていただきましょう。

★ ★ ★

この後、グループに分かれてワークを体験しました。「自分を発見できた」「とても楽しかった」「目からウロコでした」などの感想をいただきました。

## 体験型お話し会を楽しもう！

おはなし夢くらぶ

5月から月1回開催している、小学生と保護者（ママ、パパ、おばあちゃん、おじいちゃん）の「体験型お話し会！」を公開しました。まずは、「みんなで声出し」ウハウハウハ…と歩きながら発声。そして「あいうえお」の詩を暗誦。今回のワークは、気持ちによって言い方が違う言葉遊びです。悲しい時、うれしい時等々、みんなすごい！ しっかり気持ちが出ていました。そして最後は、グループや一人で、語りや絵本読みをしました。公開で参加してくれた方も一緒にプログラム。「子どもの語り、いいですね」「親子で本読みします」等、嬉しい感想をいただきました。



ママと一緒に  
絵本の読み聞かせ  
ドキドキ！

## ヨガで生涯自分らしく生きるために

朝ヨガ

現在の自分の体の状態を確認した後、普段座っている状態から、体にとって負担のない座りかたを教えてくださいました。声を出しながら、足、腰、首、そして頭までを無理のない方法で、緊張と弛緩をくりかえす動作でほぐしていきました。動作の後には、体から汗が出てきて、血液の循環がよくなりました。腰痛予防、肩こり、膝によい動作を教えてください、最後はゆっくりとした呼吸をすることで、体を整えることができました。皆さんが最初とは違う体の変化を確認することができ、簡単で無理なく自分で自分の体のケアができました。ご参加ありがとうございました。



足と手で押し合っています

## みんなで楽しむお茶会

すみれ会

タイトル通り老若男女、小さなお子様までお気軽に来ていただき、珍しい茶碗や可愛い茶碗で抹茶を楽しんでひとときを過ごしてもらおう空間作りは、私達の一年の活動目標でした。毎回使わせていただく地元の「さわい菓子店」の今回の「ゆず」菓子は、お茶会が初めてのお客様にも大変好評でした。数名の方からお稽古に参加したいとの嬉しい言葉もいただきました。

和菓子と薄茶一服を楽しみました



## 大人の女性の為の包み方

渋

今年度の渋のワークショップは、普段知っているようで曖昧な贈答の知識をお伝えし、簡単でおしゃれなラッピングバッグを作成しました。お子様と参加の方もいらっしゃったので、お子様にはわかりづらい講義でしたが、参加された方には、掛け紙と熨斗や水引の知識など役に立ったとおっしゃっていただけました。厚めのデザインペーパーを使ってのバッグ作りは、楽しんでいただけました。リボンの結び方、カーリングのリボンの使い方など、お子様にも好評でした。もっとたくさんの方にお伝えできたらと思います。

一枚の紙から折って仕上げる  
ラッピングバッグ



## 親子で作るクリスマスクッキー

食生活倶楽部

オリジナルのクッキー作りを8組の親子でチャレンジしていただきました。世界に一つだけのクッキーに、世界に一つだけのアイシング。皆さん、とても楽しく工夫して会話もはずんでいました。クッキーを焼いている時間を活用して、スープとフルーツゼリー作りも企画しました。限られた時間の中で、終了時間のギリギリまで活動しました。とても充実した内容となり、参加した方々にも大好評でした。

「次回も親子で参加できる料理を是非、企画してほしい」という声をたくさんいただきました。



アイシングに親子で奮闘中！

## 人生百年時代、運動してパワーアップ

ポピーズ

ロビーで「皆さんと一緒に身体を動かしましょう」のかけ声で、来場者、親子づれの人と共に、「元気一番体操」や、ボールを使いながらのゲーム体操等を楽しく、笑顔いっぱいで行いました。



みんなで楽しく参加できました♪

## 経絡体操気功

住吉養気会

ロビーにて練功十八法、導引保健功などを表演、見学者にも参加していただきました。

無理をせず体を動かす習慣を日常生活に取り入れて健康増進を図っていきたいと思っています。



練功十八法 表演中！

## ママに癒しの時間をプレゼント

府中市助産師会赤ちゃんと遊ぼう会

日頃家事や育児、仕事で頑張っているママ達にハンドマッサージをしながら、育児などのご相談を受けました。マッサージを取り入れたのは、普段忙しくて自分の体のことまで目が向けられないママ達に、少しでもホッとひと息つける時間をつくりたいと感じたからです。同室でお子さんを抱っこしたり一緒に遊んだりできるようにスタッフを配置し、ご参加いただいた方からは、「リラックスできた」、「話を聞いてもらえて良かった」といったご感想をいただきました。

また、赤ちゃん訪問で伺ったときの赤ちゃんが小学生になり、頼もしいお子様にお逢いでき嬉しく思いました。

私達助産師会はいつも子育ての応援団でありたいと思っています。



ママの幸せは子どもの幸せ♪

## 子どもと作って楽しむ手作り小物

オアーゼ

私たちオアーゼでは、未就学児から小学校低学年を対象とした「子どもと作って楽しむ手作り小物」を開催しました。販売ブースでは、子ども向けのバックや上履き袋、移動ポケット、体操袋、お弁当袋など幼稚園や学校で使えるものを販売。大人向けにはポーチやエコバック、手作りピアスを販売しました。第2学習室でのワークショップでは、牛乳パックで作る小物入れと、簡単に縫って作るボタンブローチを企画しました。両日ともに人が絶えず、ブースでのご購入者数は115名、ワークショップご利用者数は72名と、たくさんの親子連れの方たちにご来場いただき、予想を上回る盛況となりました。



親子で楽しんでもらえました！

## 脳活性化ゲームに挑戦！！

認知症予防ネット府中

指から腕の運動、上半身の運動から、頭を使う運動を行いました。そして、チーム対決ゲームをしました。小学生の女の子は、広告パズルをあつという間に完成させ、ビックリしました。座ったまま行うシート玉入れは、親子さんのチームで対抗戦です。何とかボールを入れようと必死です。子どもだけではありません、大人の方もムキになって、我を忘れて盛り上がりました。



指先から腕の運動で頭も活性化！

## ゆるっとふわっと人形劇

人形劇サークルのびのび

手遊び・歌遊びから始まり、人形劇「おたまじゃくし海へ行く」。おたまじゃくしは、「大きくなったら何になるのかな〜？」と大きくなる日を夢見て…そして「大きくなったらクジラになる！」と海へ。途中、足が出てきても、かえるになっても、なりたいものになる日を夢見て頑張る…、何とも勇気づけられる作品です。見てくれていた方の中には、のびのびの作品で、「まだ〇〇は見てないんです」と楽しみにして下さる方もいて、とても嬉しく思いました。また、子ども達に曲に合わせてかえるのパペットを動かしてもらった体験では、とても楽しんでくれていたのが印象的でした。今後も人形劇の温かさ、楽しさを伝えていけるように頑張っていきたいです。

子ども達も  
'かえるパペット'体験



## 親子で作るアロマストーン

科学体験クラブ府中

今回の出展にあたり、子どもたちに人気の「化石のレプリカ」のアレンジをして、新たなレシピを考案しました。「アロマストーン」は、外部団体向けでは初めての出展で、改善点もいくつか見えてきましたが、おおむね好評のうちに終了できました。アロマを使い、化石ではない型も用意して、大人向けを意識しましたが、「化石のレプリカ」は依然として人気がありました。

私たちのクラブの今の活動は、依頼が来たところに出展することが大半です。今回、出展の機会をいただき、積極的に参加することも今後の活動のためになると感じました。



人気の化石レプリカのアレンジです

## 体操で地域とつながりを！

住吉さわやか会

私たちは「体操で地域とつながりを！」をスローガンに、一般の方にも参加していただき、楽しく体操をしました。田中和子先生のご指導で、「肩こり・腰痛予防」のための手足のストレッチやセラバンドを使った筋トレ等を披露しました。



地域の皆さんと楽しい体操

## 3B体操を体験しよう

3B 健康体操

3B体操は、音楽に合わせて楽しみながら運動することが目的です。身体を思い通りに動かせば生活の質が高まります。自由参加された方はこれを実感されたと思います。

今回は自分らしく健康に生きるための体操を体験していただきたいと思います。



楽しく体験していただきました

## パソコンで年賀状や住所シールの作成

パソコン連絡会

「年賀状、カード、住所シール」の体験コーナーでは、インターネットを使った講義をしました。クリスマスカードや年賀状の作成時期で好評でしたし、特に「住所シール」は色々な型見本を用意し喜ばれました。メンバーが作成した4本のムービーの上映も、工夫や技術が駆使されている素晴らしい仕上がりで、大変好評でした。フォーラムは、パソコン連絡会 12 グループの日頃の学習成果を発表する場であり、他の団体との交流の良い機会と感じました。



楽しく作成中♪

## 気軽にお茶席体験

和文化研究会倶々楽

和室にお席を設け、一服のお茶を楽しんでいただけるよう企画しました。お客様には講師から、お茶、お菓子、掛け軸、貴重な茶器、お花等の説明を受けながら、お茶席の雰囲気も体験していただきました。気軽なお茶席でしたので椅子席も用意し、小さなお子様をはじめ多くの方にご参加いただきました。お点前やお運びをする私どもも、普段の稽古にはない、お客様を前にしての緊張感の中、充実した振る舞いができたことは、毎月の稽古の成果を実感させていただけた貴重な機会となりました。



「喫茶去、先ずは一服いかがですか」

## 思い出のネクタイでネックレスを作ろう

府中きまま塾

ネクタイと、色や形、大きさの違うビーズ、発泡スチロール2cmの球を用意。ネクタイにビーズと発泡スチロールを交互に入れて作ります。「思い出のネクタイ」をほどいて縫い、すぐ取り掛かれるところまで用意したことで、参加の方がゆっくりとビーズを選ぶ時間が取れました。迷ったり、相談したりと、好みの色を決める事ができた様子です。お子さんをおんぶして参加された方、次の予定を聞いて来られる方もいて、幅広い年代の方に参加していただきました。これからワークショップを通して楽しさを伝えたいです。



どの色にしようかな??

## 消防署って、どんなところ？

府中消防署&B.R.E.M.S

府中消防署&B.R.E.M.Sの協働講座は「消防署ってどんなところ？」というタイトルで、30分の講座を3回行いました。内容は、2つの事を同時にする、左右で違う動きをする、というシナプソロジーで脳の活性化を図りながら、災害時のクイズに挑戦、社会の見守りを担っている消防署の仕事を理解し、防災についての知識も学びました。老若男女が交流できる場づくりと同時に、署長さんがどんな質問にもやさしく対応してくださり、講座の後は、すっかり身近に感じられるようになりました。今後も継続していきたいと思えます。



消防4動作シナプソロジー!!

# 会場風景

11/10







# 府中市男女共同参画推進フォーラムとは

男女共同参画社会の実現のために昭和 61 年 3 月に制定された「府中市婦人行動計画」を基に、翌 62 年、市内の女性たちがフォーラムの開催を市に要望しました。

翌 63 年 2 月に、女性問題解決のための学習や討論の場として第 1 回女性フォーラムが開催されました。以来、地域の人々が集い、意見交換をし、行政と共に問題を認識し、解決に向けて歩み出す「きっかけの場」として毎年開催されています。

平成 11 年 11 月に府中市は「男女共同参画都市宣言」を行い、14 年の第 16 回より「女性フォーラム」を「府中市男女共同参画推進フォーラム」と改称して、新たな一歩を踏み出しました。



## 《講演会》

をだまきの会  
新日本婦人の会府中支部  
府中ネット  
NPO法人けやきの会  
市民活動研究会  
サークルいきいき

## 《ワークショップ》

すみれ会  
食生活倶楽部  
おはなし夢くらぶ  
人形劇サークルのびのび  
オアーゼ  
認知症予防ネット府中  
科学体験クラブ府中  
和文化研究会倶々楽  
府中きま塾  
B. R. E. M. S  
ポピーズ  
朝ヨガ  
渋  
住吉養気会  
府中市助産師会赤ちゃんと遊ぼう会  
住吉さわやか会  
3 B健康体操  
パソコン連絡会  
府中消防署

## 《作品展示》

みやび会  
おさんぼ  
府中年金者組合女性部きすげ会  
彩画会  
洋裁クラブ  
コットン・クラブ  
府中ネット  
なぎさ会  
住吉華洋会  
住吉書芸会  
木目込人形の会  
千野クラブ  
花版画の会

府中孔友  
府中きま塾  
パソコンひまわり  
パソコン府中WPC会  
パソコンソリティア  
パソコンチューリップ  
パソコン8-2  
パソコンFJC  
パソコンふみづきの会  
パソコンもくれん  
パソコンクラブ花木  
パソコンどんぐり  
パソコンクラブパラパラ

## 《活動紹介パネル》

けやき消費者の会  
市民活動研究会  
府中年金者組合女性部きすげ会  
ウィメンズアクション府中  
府中こども劇場  
粹和会  
顔ヨガわらびー  
愛拳会  
渋

## 《企業取り組み紹介パネル》

(株)内山住宅  
キュービー(株)  
東京ヤクルト販売(株)  
フェローズ(株)  
(株)ライフコーポレーション

## 《ポスター・プログラム作成支援》

パソコン府中WPC会

## 《記録誌作成支援》

女性パソコン研究会

## 《ボランティア(当日)》

愛拳会  
編もないと  
ウィメンズアクション府中  
おたまじゃくし

介護者の会雲雀  
科学体験クラブ府中  
桂の会  
けやき消費者の会  
健康整体あじさいグループ  
こぶし水曜会  
3 B健康体操  
渋  
J・J健康体操  
女性と市民のためのFP研究会  
女性パソコン研究会  
自力整体四谷  
自力整体悠々  
新日本婦人の会府中支部  
住吉華洋会  
すみれ会  
太極拳友の会  
千野クラブ  
つくしの会  
パソコンクラブパラパラ  
パソコンどんぐり  
パソコン七期会  
パソコン府中WPC会  
パソコンひまわり  
パソコンふみづきの会  
パソコンもくれん  
ハッピーアンドスマイルキッズ  
華未月会  
府中子ども劇場  
府中市女性防火の会分梅支部  
府中市俳句連盟  
府中年金者組合女性部きすげ会  
ポピーズ  
みやび会  
みんなのサロン  
養生気功同好会  
洋裁クラブ  
リフレッシュママ府中  
和文化研究会倶々楽

## 《協力会社》

キュービー(株)  
東京ヤクルト販売(株)  
(株)ライフコーポレーション

## 参加人数とアンケート集計結果

フォーラム参加者数 1,300人 (講座参加者1,200人・作品展示見学者100人)

アンケート回答者数 177人

性別 女性 120人・男性 17人・無記入 40人

年代 10代・2人 20代・3人 30代・14人 40代・41人 50代・21人  
60代・41人 70歳以上・43人 無記入・12人

住所 府中市内 151人

府中市外 26人 (板橋区、台東区、国立市、稲城市、国分寺市、多摩市、調布市、八王子市、日野市、川崎市、無記入・5人)

### 男女共同参画社会を実現するために力を入れてほしいこと (複数回答あり)

- ・男女ともに柔軟な働き方を選択できる環境 87人
- ・保育や高齢者・病院介護施設やサービスの充実 68人
- ・女性の就労機会を増加 41人
- ・女性を政策決定の場に積極的に登用 61人

### 基調講演の感想

- ・誰かの為に生きる、生かされている喜びをお互いに育てながら幸せな家庭を築きたいと思いました。
- ・日本の少子高齢化・男性中心・仕事優先社会にメスを入れるべく、自ら団体を立ち上げ活動されていることに感銘を受けました。
- ・47歳の女性で、子どもが2人います。ぜひ、夫にも聞いてもらいたいお話でした。
- ・地域への向き合い方の意識が変わったと思います。
- ・男性の家事参加には女性の協力も必要。事例の話が多く、納得できました。
- ・安藤哲也さんへの講師依頼から、男女共同参画に力を入れておられることを実感しました。
- ・息子夫婦が共稼ぎ子育ての最中です。祖母である私は、お嫁さんを応援するような助言をしたいと思いました。
- ・若い頃は仕事や趣味が主であったが、今、イクジイで過ごしていることは、自分の活動のためだけでなく、周りの人のためにもなっていることを改めて感じた。
- ・有意義なお話でした。みんなの考え方を変えていく事が大事だと思う。

### 講座・ワークショップの感想

- ・行事と月の密接な関係を知ることができて興味深く、日本人の感性に改めて感心いたしました。
- ・「伝統行事や祭りは月暦で行う」は非常に説得力ある言葉としてしみしました。
- ・更年期について、時代、文化、男性の視点からのお話、非常に興味深く、拝聴しました。
- ・見えにくい女性の貧困。支援が届きにくい実態や、寄り添う支援やプログラムは、取り組まなければならない大きな課題ですね。充実した講座でした。
- ・夫86歳、私79歳。終活シニア対象に現在の医療について、先生のお考えで講演があったら、と思う次第です。
- ・親子で初めてアイシングクッキーを作り、楽しかったです。
- ・2歳の子どもが人形劇体験に、楽しそうでした。まだ6か月の乳児ですが興味を持って見ていました。
- ・子どもと一緒に地域の歴史や文化などを学べる講座や、夜の企画があってもいいかと思います。
- ・子どもの絵本や童謡のなかにあるジェンダーについても知りたい。
- ・お茶席は気持ちが和らぎました。器も素敵で説明があり、よかったです。
- ・とても簡単に素敵なネックレスが出来て大満足です。皆でワイワイと楽しかったです。
- ・若い世代が夢と希望を持てる環境を増やすことが重大だと思う。男・女の区別なく。

# 男女共同参画推進フォーラム開催の歴史

(第1～15回の名称は「女性フォーラム」)

回	日付	会場	委員長	副委員長	テーマ
1	昭和 63/2/14 1987 年度	市民会館	佐野春江	荒木和子 佐藤法恵	私たちのあしたは… 新しいつながりを求めて
2	平成 1/ 1/29 1988 年度	府中グリーンプラザ	田代由美子	佐野春江 森 和子	女も男も自分らしく生きるために
3	2/2/4 1989 年度	府中グリーンプラザ	森 和子	右田房子 田代由美子	話しましょう、始めましょう
4	2/12/2 1990 年度	府中グリーンプラザ	荒巻ちず	赤羽美樹子 森 和子	話し合おう！21世紀に向かって —よりよく生きるために—
5	3/11/23・24 1991 年度	府中グリーンプラザ	関 和子	荒巻ちず 矢島千里	行動しよう参加から参画めざして
6	4/11/22 1992 年度	府中グリーンプラザ	矢島千里	関 和子 横山永望	まず気づこう 暮らしの中から —わたしたちは本当に自由になったか—
7	5/11/28 1993 年度	府中グリーンプラザ	和田安里子	岡本千賀子 中山節子	かわれ!府中の男たち うごけ府中の女たち
8	6/11/20 1994 年度	府中グリーンプラザ	金指光恵	三輪寛子 近藤キミ子	つくられた女から創る女へ いま、私たちの歩みは止められない
9	8/2/17 1995 年度	女性センター	浅田多津子	金指光恵 浅野明子	明日の自分を見つめよう!
10	9/2/22・23 1996 年度	女性センター	佐藤法恵	漆原みつほ 三輪寛子	出会うこと、学ぶことから始まる “ジェンダー・フリーって何?”
11	10/2/14・15 1997 年度	女性センター	漆原みつほ	佐藤法恵 須藤春子	ジェンダーからジェンダーフリーへ 女と男(わたしとあなた)同じステージで輝きたい!!
12	10/12/5・6 1998 年度	女性センター	岡崎妙子 白井紀子	佐藤法恵 鈴木恒代 矢島浩志	キテ・ミテ・ハナソー 女(ひと)と男(ひと)との素敵な関係
13	11/11/19 20・21 12/3/11 1999 年度	中央文化センター 女性センター 女性センター	小西厚子	池田房江 岡崎妙子 丸山陽子	男女共同参画宣言都市奨励事業 記念フォーラム 第13回府中市女性フォーラム
14	12/12/2・3 2000 年度	女性センター	鈴木恒代	西橋結花 和田安里子	ともにつくろう わたしたちのまち 「井戸端会議しませんか」
15	13/12/1・2 2001 年度	女性センター	小西さつき	加藤礼子 榊 初代 鈴木恒代	ともにつくろう わたしたちのまち
16	14/12/6・7 2002 年度	女性センター	佐藤法恵	鈴木恒代	ともにつくろう わたしたちのまち
17	15/12/6・7 2003 年度	女性センター	田代由美子	納村万智栄 丸山陽子	見つけませんか ともに生きる未来を!

回	日時	会場	委員長	副委員長	テーマ
18	16/12/11・12 11 2004年度	女性センター 府中グリーンプラザ	岡崎妙子	鈴木和代 矢島浩志	素敵に生きよう男と女 ～私の力活かせる社会へ～
19	17/11/28～ 12/4 2005年度	女性センター	岩崎真弓	鈴木恒代 穂積菜絵子	おーい！！ 来たら何かが変わるよ
20	18/11/25・26 2006年度	女性センター	穂積菜絵子	五座麻紀子 佐藤麻美	「私のジェンダー調理法」 ～男は仕事、女は家庭？～
21	19/12/1・2 2007年度	女性センター	笠井直美	黒澤淳子 浜田広美	いまの世の中なんか変？！ ～Let's Do it now～
22	20/11/29・30 2008年度	女性センター	井沢サト子	岡崎妙子 積 優子	チェンジ！ 輝くひとへ
23	21/11/28・29 29 2009年度	女性センター 府中グリーンプラザ	前川浩子	秋山由美子 矢島千里	くらやみからみこしをあげよう！
24	22/11/6・7 2010年度	女性センター	桜井洋子	石川伊知朗 漆原みつほ	ワーク・ライフ・バランス どう生きる？どう動く！私たち
25	23/11/26・27 2011年度	女性センター	漆原みつほ	小野資子 鈴木和代	ポスト3/11 本当の「豊かさ」って？
26	24/12/1・2 2012年度	女性センター	鈴木和代	漆原みつほ 藤井加津子	希望をもって だれとつながる みんなとつながる
27	25/11/30・ 12/1 2013年度	女性センター	藤田恵美	榎本久美子 村山鑑恵	今ッ！つながれば つよくなる
28	26/11/21・23 11/22 2014年度	女性センター 府中グリーンプラザ	藤田恵美	榎本久美子 村山鑑恵	伝えあおうよ 私たちの未来
29	27/11/20・22 2015年度	女性センター	高梨珠子	藤田恵美 三浦真理子	学び、気づき、その先へ！
30	28/11/19・20 2016年度	女性センター	藤田恵美	漆原みつほ 田鍋浩美	男女でつくる 活躍の場
31	29/11/11・12 2017年度	女性センター	向井佐知子	田中ゆかり 藤井加津子	男でもいい 女でもいい 「自分らしく」生きる
32	30/11/10・11 2018年度	女性センター	田中ゆかり	高橋敦子 向井佐知子	地域で「自分らしく」生きる

#### 「女性センター」から「男女共同参画センター」へ

市民に女性問題に関する学習の機会や活動の場などを提供し、女性を取り巻く問題の解決等に寄与する施設として平成7(1995)年2月に開設した女性センターは、平成31(2019)年4月からは、男女共同参画社会の形成を推進する施設として明確に位置付けるため、「男女共同参画センター」に名称変更します。

# 平成30年度 NWE C男女共同参画推進フォーラム参加報告

国立女性教育会館(NWEC)では、毎年、女性のキャリア形成支援や働き方改革について考える「男女共同参画推進フォーラム」が開催されています。今年度も実行委員が参加しました。

8月30日(木) 13:15~15:00

## シンポジウム「新しい暮らしのカタチ～働き方×幸福度～」

コーディネーターは萩原なつ子立教大学教授、パネリストは阿部裕志・巡の環代表取締役、正能茉優・ハピキラ FACTORY 代表取締役社長が務めました。

阿部氏は、島根県海士町にIターン・起業し、まちづくり、ひとづくりを实践して島を活性化させる中で、くらし・しごと・かせぎのバランスのとれた新しい生き方を探求するようになったそうです。正能氏は、大学生のとき、地方の魅力を発信する会社を起こし、卒業後は一般企業の社員として勤務するという「二足のわらじ」を实践。「仕事・趣味・友人・家族・恋愛すべてをバランスよくこなしたい」というミレニアル世代の理想的な生き方をお話しされました。

地域・文化との関わり方や幸福な生活のあり方に焦点を当て、「新しい生き方」について考えるシンポジウムでした。



8月31日(金) 13:30~15:00

## 特別講演「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」

国谷裕子氏(東京藝術大学理事・キャスター)が講演。

ご自身が歩まれた道を通じて、制度の充実や環境整備が進む一方で、いまだに女性への差別や男女間格差が存在する現状を伝え、男女間や世代間の意識の差を改革する必要性を強調されました。例えば、性暴力を受け告発したら逆に批判が集中した事件、セクハラを訴えた女性記者への報道姿勢やネット上の攻撃、医学部入試の女性差別など、日本には依然として男女間格差、女性差別が存在します。また、NWE Cの「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」によれば、管理職を目指す女性が入社年数が経つにつれどんどん減っています。

後半では、地球環境を守ることを、「誰一人置き去りにしない」ことを基本方針とするSDGsを新しいものさしとし、それぞれの自治体、コミュニティで課題を見つけ、全員で解決していく重要性を伝えました。このままでは世界は持続可能ではないことを受け止め、女性がより声を上げて男女格差を是正していくことが重要と、会場を埋め尽くす参加者に熱いメッセージを投げかけ、大盛況の講演となりました。



9月1日(土) 10:00~12:00

## ワークショップ・NWE Cボランティア劇場「桃太郎・ノーリターン」に参加して(漆原 みつほ)

おばあさんが柴刈りに、おじいさんが洗濯にという設定で、従来の性別役割の意識変革を提案。おじいさんが洗濯は腰が痛くなること、濡れた衣類は重量が増すということを知る。また、大きな桃を持ち帰ることができず、おばあさんに相談し、そこは女の機知。持ち帰れる大きさに切るべく、二人で川へ。包丁を入れるとなんと女の子が。桃から生まれた桃子です。成長した桃子は鬼退治に。お供へのきび団子は、♪あげましょう〜、男女共同参画の推進についてくるならあげましょう♪と。(全員で唱和) また、最たる想像外の展開は、鬼たちは暴力否定者だったので和解して村へ。(拍手で終了)

女性が出産するということが厳然たる事実。諸説ある、桃から子どもを生み出すというこの昔話は、何を示唆して創られたのか。かつてない興味が広がりました。

## 実行委員から一言

### 漆原 みつほ

皆様のアンケートに感謝です。多角的な視点を次年度のフォーラムに活かすことで、より地域の交流の場になると思います。

25 ページを、ぜひご覧ください。

### 高橋 敦子

一から作り上げていくフォーラム、大変でしたが楽しいものもありました。実行委員皆が、意見を出し合い検討する。学びの多い時間でした。関わってくださったすべての方々、そして事務局にも感謝いたします。

### 向井 佐知子

「人生は寄せ鍋。仕事も子育ても家事も地域もブレンドさせるワークライフシナジー。父親が府中を変える！」という基調講演に始まり、多彩な講演会、ワークショップと充実したフォーラムになりました。ご協力いただいた皆様に感謝します。

### 田中 ゆかり

みなさまのご協力をいただき、フォーラムを無事故で、大成功で終わることが出来ました。また、実行委員のみなさまが本当に素晴らしく、みんなで作り上げられたことに心から感謝申し上げます。



### 藤井 加津子

講演会もワークショップも多種多様で、いろんな方が楽しめる内容だったと思います。ことしも、みんなで考えて、話し合っ、何かを生み出していくことの楽しさを味わうことができました。ありがとうございました。

※ 監事 折田 利恵子

## 実行委員会等開催記録

日付	回数	協議・検討事項等
3月16日	第1回	開催日・スケジュール等の確認 実行委員の役割分担 調整部会の付託事項 市民団体・企業の参加の可否 基調講演のテーマ
4月5日	第2回	基調講演のテーマ 登録団体アンケート結果 予算案 市民団体・企業の参加募集広告 参加申込書の内容
4月18日	第3回	開会式・基調講演 キャッチコピー 参加申込書の内容 企業への協力依頼 ポスター・プログラム
5月15日	第4回	基調講演の講師決定 団体活動費 企業パネル展示の公募 ポスター・プログラム 調整会開催通知
6月5日	第5回	企業パネル展示の公募 プログラム用原稿作成 調整会 ポスター・プログラム 参加申込書
6月14日	第6回	基調講演タイトル ポスター・プログラム 企業への協力依頼
6月23日	調整会	実行委員紹介・挨拶 フォーラムの概要説明 個別チラシについてのお知らせ 発表部門の部屋割り・展示部門の展示場所 物品販売
7月11日	第7回	調整会報告 ポスター・プログラム ハルーン装飾依頼 販売希望団体申請書
7月25日	第8回	装飾 ポスター・プログラム NVECフォーラム参加者
8月7日	第9回	企業パネル展示の公募 ポスター・プログラム 団体へのボランティア協力依頼 NVEC 参加費
9月11日	第10回	NVEC 参加費・報告方法 団体へのボランティア協力依頼 企業パネル展示の公募 ちゅうバスポスター 参加団体へのお知らせ・申請書等 団体活動費 記録誌ページ割・団体協力依頼
10月9日	第11回	NVEC 参加に伴う交通費 ちゅうこまの出演 参加団体使用器具申請 作品・パネル展示 記録誌 ハルーン装飾 ボランティア協力依頼 準備スケジュール
11月8日	第12回	バルーンゲート作成 企業パネル展示 アンケート用紙の内容 ポスター・プログラム・記録誌作成協力への謝礼 事前準備作業
11月 5日～11日		作品展示
11月10日～11日		府中市男女共同参画推進フォーラム
12月5日	第13回	参加人数・アンケートの集計 予算の執行状況報告 反省と改善点 記録誌ページ割
3月末	第14回	記録誌完成報告 決算報告 来年度のフォーラム

# 男女共同参画都市宣言

わたしたちは、歴史にはぐくまれたふるさと府中を誇りとし、性別を超え、世代を超えて、互いに人として尊重し合い、共にいきいきと輝くまちをつくり続けるために「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 わたしたちは 男女が共に 社会のあらゆる分野に平等に参画するまちをつくります
- 1 わたしたちは 一人ひとりが自立し 認め合い 心豊かに暮らせるまちをつくります
- 1 わたしたちは 職場・地域・家庭において 男女が共に責任を分かち合うまちをつくります
- 1 わたしたちは 国際社会の一員として 平和を愛するまちをつくります

平成11年11月3日

府中市

## 第32回府中市男女共同参画推進フォーラム記録誌

編集&発行 府中市・第32回府中市男女共同参画推進フォーラム実行委員会

発行日 平成31年3月

連絡先 スクエア21・府中市女性センター

〒183-0034 府中市住吉町1-84 ステージャ府中中河原4階

電話 042-351-4600 FAX 042-351-4603